ふかまちのまど　第十二号　九五年四月一日

今思うこと

民生児童委員　沖西サカエ

昭和一桁に生まれ、明治生まれの父母に育てられ、戦前、戦中、そして敗戦、高度成長の目まぐるしい中をかけ抜けて、気がついて見れば、既に高齢化社会形成の一員となっていました。

この長い道のりの中で、地域の方々の限りないご厚情と、はげましにささえられて、今こうして自分なりにささやかな日暮らしの出来ますことを本当によろこび、感謝致しております。

さて、今から五年前、何の知識も考えもないままに民生児童委員と言う重要な仕事の委嘱を受け、本当に戸惑いつまづきながら先輩の方々の指導のもと、勉強を重ね、今ようやく地域の方々のために自分に出来る限りのお手伝いが出来たら、と言う気持ちで日々地道な活動をして居ります。

こうした活動の中、いつか仏教婦人部講話で聞いた話を思いだしました。

信仰とは、自分の総てを人に施せ、金のある者は金物のある者は物を施すこと、だ、と話された処一婦人の、いわく、私には富も財宝もございませんが、それでは駄目ですね。とさも残念そう。とんでもない、貴方方は最も尊い施しが出来ます、よ慈愛施、慈眼施、即ち自分の正直と慈愛に満ちた心、そして、優しい眼差しに依って人々に接することだ、と悟されたそうです。

そうだ、今の自分にもこの婦人とおなじように、宮も財宝もないけれど、自分がこれだけはほこりとして来た正直な心、そして慈愛に満ちた心を忘れず地域の人々に優しく接し、どんなちいさな心配や愚痴でも、安心して話していただける人間になることを念じております。

どうか民生児童委員は、皆様にしてあげる立場ではなく、皆様にさせていただく立場にあることをご理解くださいまして、気軽にどしどし私達を利用して下さい。そして、共に住みよい町づくりをめざし、心豊かな人と人との温もりが伝わる素晴らしい深町が益々発展しますように。▲▲

入学おめでとう

☆河原勇真　☆森迫昭圭
☆西永貴博　☆宮本翔太
☆西本龍　☆岩野美穂
☆河原和哉　☆迫多来美
☆中島千順　☆力武美沙
☆玉置あゆみ

転校して来ました

☆宮本恵太　☆河原美穂

小学校人事

離任
☆校長　山田義孝
☆養護教諭　槇田規子
☆事務担当　入江若葉

就任
☆校長　平前哲雄
☆教頭　金原雅子
☆養護教諭　藤田あさみ
☆事務担当　福田佳磨子

退任
☆教頭　中川嘉明

ささやかなる　生き甲斐を求めて

音石金子

今年七十歳を迎えた私です。おもえば、戦時中食べ物も着るものもない娘時代でした。結婚は十九歳の終戦の前日でした。

戦後の厳しい家庭生活を乗り越え、今年は五十年の金婚式を迎えようとした矢先、昨年暮れ夫に先立たれました。

二人で築きあげた人生です。一人残された私の心中は、暗闇の一本杉です。原稿を依頼されましたが、その気にはなかなかなれませんでしたが、今の私の気持ちと思い出を書き残しておくのも、との思いで筆をとりました。

老い先き短い人生を、明るさを取り戻しながら、もう一度、精一杯楽しく生きていきたいおもいです。

足は不自由でも手と口があればできます。と先生に勧められ好きな「道」を始めて居ります。

先生に月二回町民会館に来ていただき、民謡と編物を十年、習い続けて来ました。

初めは多数の参加者がありましたが、だんだん減りましたが、けど、私は耐えました。今ではよくぞ頑張った、と自己満足して居ります。

みなさんとの月二回の出会いが、待ち遠しくてならない昨今です。今は尚寿会にも入会し、楽しい旅行にも度々参加させてもらって居ります。

年はとっても、人の中に出れば、ストレスもたまることもなく、毎日が楽しみです。「次は何？」と暦に目を流す日々です。

残り少ない人生を精一杯楽しく送りたい、と思って居ります。

夫に先立たれ一人となった今も、民謡・編物グループのみなさんに支えられ、元気を取り戻すことができ、幸せだと喜こんでいる今日この頃です。

ひろしま

石井良雄

一
ああ原爆の死の町が
奇しくもここに甦る
よくぞ広島夢の町
百日紅の花咲けば
み魂よ眠れ安らかに
花を供えて祈ろうよ

二
みんながみんな幸せに
ひとりひとりが幸せに
生きるスペース　与えられ
いつも明るい笑い声
愛のことばを親切を
これは楽しい夢の町

三
七つの川の水清く
ドームの空に　群れてとぶ
平和の天使白い鳩
涙と悲願忘れずに
文化の花を咲かすのだ
あゝ広島に栄えあれ

逝きし息(三)よ

梶谷良夫

ひそやかに夜空に浮かぶ
若月にはかなく逝きし
吾子を憶えり

冬が来れば伜の形見の
コート着る焦茶の色の
身にあたたかく

いらっしゃいませ

☆河原孝則様　七年三月　四組
☆玉置　仁様　七年四月　浦園

お悔み申し上げます

★力武すえも様　三月八日八歳

各種団体四月行事予定

尚寿会
▼総会・旅行　四月六日～七日。

女性会
▼親睦会　中　四月一日、
上　四月三日、総会　四月八日。

小学校
▼就任式・入学式・始業式　四月六日　▼離任式　四月七日
▼入園式　四月一〇日▼退任式　四月一四日　▼参観日　四月一五日
▼家庭訪問　四月一七日～一九日。

上町内会
▼花見会　四月二日。

町内会連合会
▼定期総会　四月九日。

展望席

小学校卒業式に招かれ出席した。七人の卒業生が、在校生と向かい合って席についた。五十年前の卒業生からみれば舞台装置・演出とも格段の相違である。▼校長先生が卒業生一人ひとりの長所や、善行を餞けの言葉として贈られた。手塩にかけた児童との別れに先生の目にも光るものがあった。保護者の一言謝辞や追憶もよかった。▼家庭と学校が一体となって教育に取り組んだ様子が伺える。大規模校ではとうてい望めぬきめのこまやかさ、気配りが感じられた。▼今、日本の中学校は、いじめ問題でピリピリしている。これは生徒を取り巻く環境が、涙（？）不足になっているのも原因の一つである。知的教育と情操教育のバランスのくずれとみるのは短慮であらうか。追い詰められ最後の選択肢が自殺とはあまりにも無情である。血も涙もある現代版「駆け込み寺」は必要である。